

## ☆骨転移レジメン

### ビスホスホネート (BPs) による治療

乳癌：進行乳癌の 65～75%が骨転移を起こすと算定されているが、骨転移再発診断後の 50%生存期間は 18～26 ヶ月と比較的長い再発後生存期間が期待できる。骨転移に使用されている BPs は主にパミドロン酸（アレディア®）とゾレドロン酸（ゾメタ®）である。

これらは、ランダム化比較試験により SRE の減少、発現までの期間の延長、その SRE 発現比率の減少を認めている。

乳癌骨転移患者に対する BPs 使用について（ASCO ガイドライン）

対象患者：骨 XP で容骨性変化、または CT or MRI での骨破壊のある患者

薬剤：パミドロン酸（アレディア®）90mg/3～4 週

ゾレドロン酸（ゾメタ®）4mg//3～4 週 の点滴と標準治療との併用

いつまで：患者さんの全身状態が悪化するまで

骨転移予防：使用は推奨されない

骨粗鬆症予防：ハイリスク患者さんを経過観察し、必要なら経口 BPs を使用

### <投与方法>

ゾレドロン酸（ゾメタ®）：生食 100ml+ゾメタ®4 mg 15 分

（外来化学療法 可能）

副作用：発熱、倦怠感、嘔気、頭痛、関節痛

泌尿器科がん：前立腺癌の進行例で 65～75%、膀胱癌 40%、腎癌 20～25%に骨転移が出現するとされている。前立腺癌は骨転移発現後生存期間が中央値 36 ヶ月と長いことが特徴で、骨痛などの SRE コントロールが重要である。